アクラス研修会　2020/ 2 /23　二通信子

著者との対話：『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』

1．はじめに―留学生のための文章表現のクラスの課題

日本語クラスでの作文の目的		大学でのレポートで求められること
・日本語の文法や表現の使い方を学ぶ ・日本語の文章の書き方を学ぶ ―主に自分の経験や感想を伝える文章	＋	・テーマにかんする理解と自らの問題意識 ・資料に基づく論理的な考察＋文章の論理的な組み立て ・レポート・論文というジャンルにふさわしい書き方

・大学での留学生を対象としたクラスでは、論理的な文章の書き方とともに資料の利用や引用の方法などレポート作成に必要な基礎的な知識やスキルも学ぶ必要がある。

・「論理的な文章」とは？
私たちが普段読む文章で、内容が明確でわかりやすい文章にはどんな特徴があるだろうか？

参考

● 木下是雄（1998）『レポートの組み立て方』筑摩書房
① 重点先行…初めに主題を提起する。一つ一つの文と、文章全体の関係が明確である。
② 段落…一つの内容で一つの段落。段落内に中心文と他の役割の文。
③ 論の正しさ…正しい推論。論理学に則った論の進め方。
④ 一語一義…言葉に様々な「雰囲気」をまとわせず、言葉を「ハダカ」で使う。

● 井上尚美（1998）『思考力育成への方略―メタ認知・自己学習・言語論理』明治図書
① 語…概念の正確さ
② 文…判断の正しさ
③ 文章…論の筋道の正しさ

● 野矢茂樹（1997）『論理トレーニング』産業図書出版社
文や文章の接続関係―【付加・解説・論証・例示・転換・制限・譲歩・対比など】
・「論理とは言葉が相互に持っている関連性」である。「論理的になるとは、この関連性に敏感になり、言葉を大きなもとまりで見通す力を身に着けること」。
・議論をするときに、意識的に接続関係を多用すること。論理的な文章を読むときに、意識的にその接続関係を考えながら読むこと

2．『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』の概要

2.1　教科書の目的

以下の①～⑤について学び、大学での学習に必要な文章表現力を習得する。

① アカデミック・ライティングにふさわしい文体、表現を用い、正確で明快な文を書くこと
② 段落および文章全体の論理的な構成を意識して書くこと
③ ある事柄や主題に関して、思いつきをそのまま書くのではなく、分類・比較・因果関係の検討、資料による検証など、客観的な考察を行ったうえで書くこと
④ 資料を適切かつ効果的に使って書くこと
⑤ 事実、自分の意見、引用の三つを明確に区別して書くこと

＊アカデミック・ライティング：レポートや論文のような学術研究の場で用いられる文章

さらに、本教科書では、文章例や作文課題において現在の日本で話題になっていることを積極的に取り上げ、学生自身の社会的な関心や問題意識を高めるように配慮した。

2.2　教科書の構成

＊下線は大幅に改定した課

第Ⅰ部　基礎編―文章表現の基礎知識	第Ⅱ部　実践編―論理的文章の作成	
第１課　レポートに使われる文体	第１課　段落	文章の構造
第２課　文の基本	第２課　仕組みの説明	論理的な思考と表現
1. 自動詞や受身形を使った文	第３課　歴史的な経過	
2. 助詞「は」と「が」の使い分け	第４課　分類	
3. 語や文の名詞化	第５課　定義	
4. 首尾一貫した文	第６課　比較・対照	
第３課　句読点の使い方	第７課　因果関係	
第４課　各種の記号の使い方	第８課　<u>意見と根拠</u>	
第５課　<u>引用のしかた</u>	第９課　<u>資料の利用</u>	レポートの知識やスキル
参考　レポート用紙や原稿用紙の使い方	第 10 課　<u>レポートにおける引用</u>	
	第 11 課　<u>レポートの作成</u>	

◉ 一つの文章やレポートのなかでも、「分類」「定義」「比較」「意見」など複数の論理的な展開が含まれる。

◉ 同じ話題でも異なる論の組み立てができる。（「プラスチックごみの問題」を例に）
経過　：1960 年代から現在までのプラごみ処理方法の変化
仕組み：プラスチックごみリサイクルの仕組み
比較　：使い捨てプラスチックに対する EU と日本の対応の違い

2.3　課の学習の進め方

＊詳しくは教科書の付録（「この教科書を使う先生方へ」）参照

<第Ⅱ部の場合>

課の目的の確認
↓
文章例 ― 問題意識の喚起／文章の論理的な展開／論理的な文章に使われる表現／課の目的に応じた文章のモデル（作文課題の参考に）。
↓
理解問題
↓
文型・表現 ― 課の目的に関した基本的な表現
↓
作文課題 ― ・書くための整理や検討を行ったうえで論理的な構成で書く。
・400 字～600 字程度の比較的短い文章。
・テーマを限定し、文章作成の手順もできるだけ指示する。
・授業で課題の導入を行い、文章作成は基本的に宿題とする。
↓
作文課題のフィードバック ― （少人数クラスでの例）
・作文の中で学生自身に見直させたい箇所や下線で示し、その他の部分は修正して返す。返却時に下線部分について学生に修正させ、その場で確認する。
・他の学生の参考になる優れた部分や、学生に共通する問題点（文法、表現、文章構成など）を授業で取り上げ、学生の意見を引き出しながらともに考える。

2.4　教科書の対象者、必要時間数

・対象者：大学入学前または入学直後の留学生。日本語能力は中級後半レベルを想定。

・時間数：1 コマ 90 分×30 回程度。週 1 回の授業で 1 年間。

第Ⅰ部は各課 1 コマ（2 課のみ 4 コマ）、第Ⅱ部は各課 1.5～2 コマ程度。

3．各課の具体的な内容

以下の課を例に、課の目的、文章例や作文課題などの意図、授業での進め方などについて説明する。

・第Ⅰ部　第 2 課　文の基本
・第Ⅱ部　第 1 課　段落
・第Ⅱ部　第 2 課　仕組みの説明
・第Ⅱ部　第 4 課　分類
・第Ⅱ部　第 9 課　資料の利用

資料（教科書のコピー）参照

3.1　書くための文法―第Ⅰ部　第２課 文の基本

これまで学習した日本語の文法知識を、文章を書くときに適切かつ効果的に使えるようにする。
また、留学生の作文に多くみられる問題点を取り上げて、学生の意識化をはかる。

❶ ものや事柄が主語になる文―自動詞や受身形を使った文

> ・・・・「発電床」が話題になっている。日本の会社の開発によるもので、ブラジルのクリチバ市に導入され、市役所前の歩道に設置された（略）　この発電装置を開発したのは、～という会社で、同社は今後、クリチバ市で製品紹介のセミナーを開くとともに、「部品を輸出して現地工場で発電床を組み立てる準備を進めている」という。

・自動詞・他動詞の対応、自動詞がない場合に受身文が使われていることにも注目する。
・動作主に視点をおいて書かれた文章を、事柄に視点をおいた文章に書き直す練習も。

❷ 助詞「は」と「が」の使い分け

・ 修飾節の主語の「が」、連体修飾節の構造
　例：×私は住んでいる町には、コンビニがない。

・ 文の主題を示す「は」
　例：×私の趣味が絵を描くことだ。

❸ 語や文の名詞化

例　×環境が悪くなるが問題だ。 → 環境が悪くなることが問題だ → 環境の悪化が問題だ

・名詞への置き換えの例

> 日本ではプラスチックごみが どのように集められ捨てられているか、また政府はプラスチックごみを減らすためにどんなことをしているか調べたい。… →日本におけるプラスチックごみ回収を処理の現状、およびプラスチックごみ削減のための政府の取り組みについて調べたい。・・・

・文の名詞化、 動詞や形容詞の名詞化

❹ 首尾一貫した文

・主部と述部の対応
　例：×日本に来て困ったことは日本語がわからなかった。
　　×私の考えは、このような規則はよくないと思う。

・一つの文に一つの内容
　例：×私は日本語を勉強して通訳になりたいと思ったから日本に留学して、私の学部は文化学部である。

補足

中国語話者の作文に見られる問題点

1）名詞修飾節の「の」　×「私が買ったの本」　（c.f. 中国語「我～的＋名詞」）

2）テ形の過剰使用

×「中国人がいつも日中辞書の冷を「凉」に翻訳して、実は大きな違いがある」

3）句読点

×「大学に生協とセブンイレブンがある、買いたいものがある、非常に便利だと思う」

→「、」でつないだ各部分の関係を考えて、適切な文に分ける。必要なら接続表現を加える。

3.2　第Ⅱ部 第１課 段落　☞資料①

・「中心文」「支持文」「まとめ文」「関係指示文」など段落中の役割を意識して読んだり、書いたりする。

・文章全体におけるそれぞれの段落の役割を考える。

・指示語や関係指示文など段落間のつながりを示す部分に注意する。

3.3　第Ⅱ部 第２課 仕組みの説明　☞資料②

・仕組みについての分かりやすい説明のしかたを理解する。

・読み手の立場に立った説明の順序を考える。

3.4　第Ⅱ部 第４課 分類　☞資料③

・論理的に考える一つの方法としての分類の重要性を理解する。

・ある基準によって分類を行い、それをもとに考察する。

3.5　第Ⅱ部 第９課 資料の利用　☞資料④

・具体的な資料を示すことによって説得力のある文章になることを理解する。

・資料の種類や探し方を理解し、資料を注意深く批判的に扱う態度を養う。

・資料や調査結果などについて自分が注目する点について分かりやすく説明する。